

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
令和6年8月

令和6年4月18日（木曜日）に、全国学力・学習状況調査が実施されました。
今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

調査の目的・内容

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

(3) 調査事項

①児童生徒に対する調査

ア：教科に関する調査（国語 算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおり。

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

イ：質問紙調査

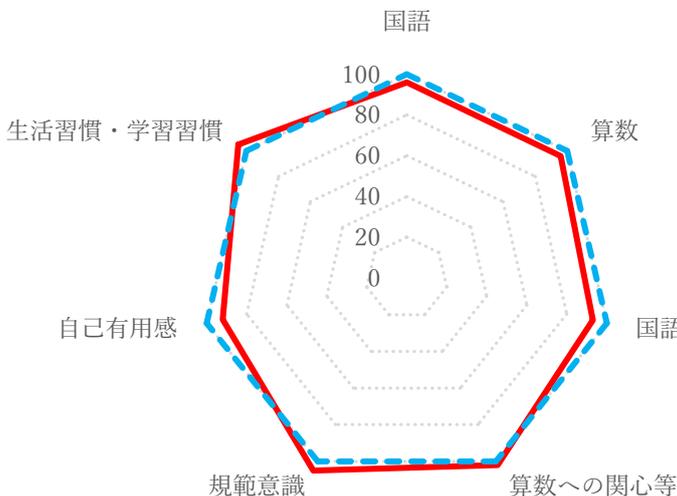
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

②学校質問紙調査

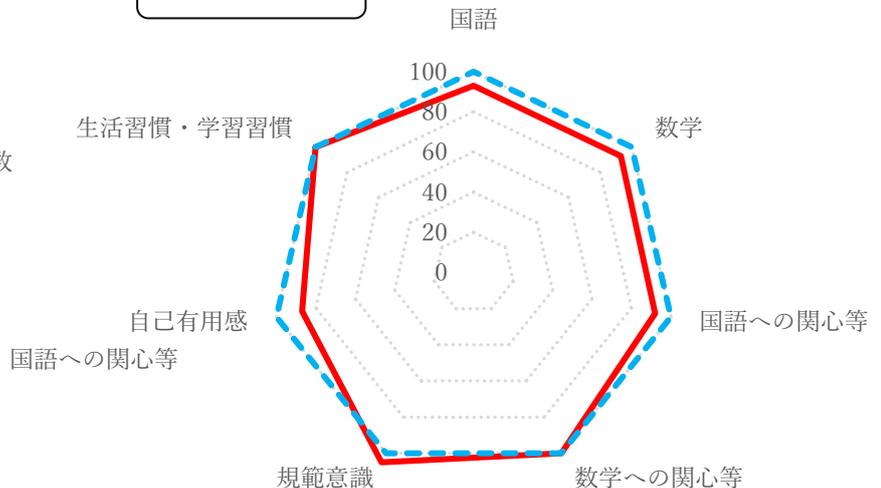
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等

調査結果の概要

小学校



中学校



*全国の値を100としたときの市の値を表しています。■全国 ■彦根市

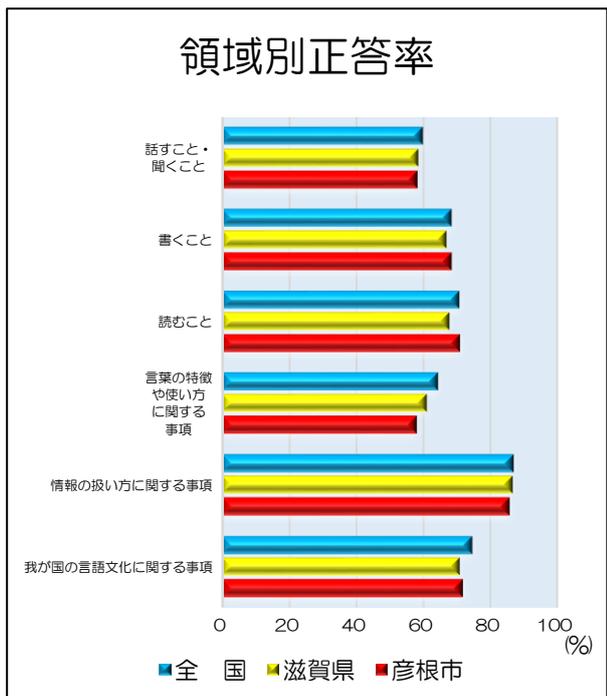
小学校（全14問）



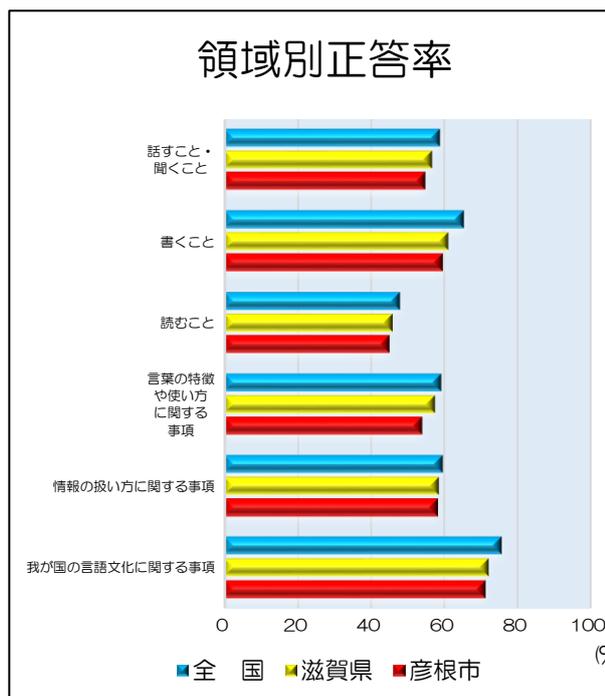
中学校（全15問）



領域別正答率



領域別正答率



この調査から分かること

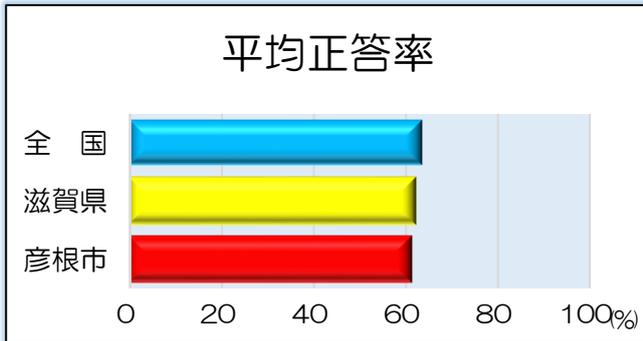
(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校では全国平均を若干下回り、中学校では下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、「知識・技能」「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を下回り、「書くこと」「読むこと」の領域は全国平均を上回りました。中学校では、「読むこと」の領域において改善が見られ、全国平均との差が縮まったものの、全ての領域で全国平均を下回りました。また、小・中学校ともに「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、課題が見られました。
- 平均正答率について、小学校では、全ての記述式問題において、全国平均を上回りました。中学校では、全ての記述問題において、全国平均を下回りました。
- 小学校の記述式問題の無解答率が全国平均よりも低く、粘り強く問題に取り組む姿勢について改善が見られました。中学校の記述式問題の無解答率が全国平均よりも高い傾向でした。

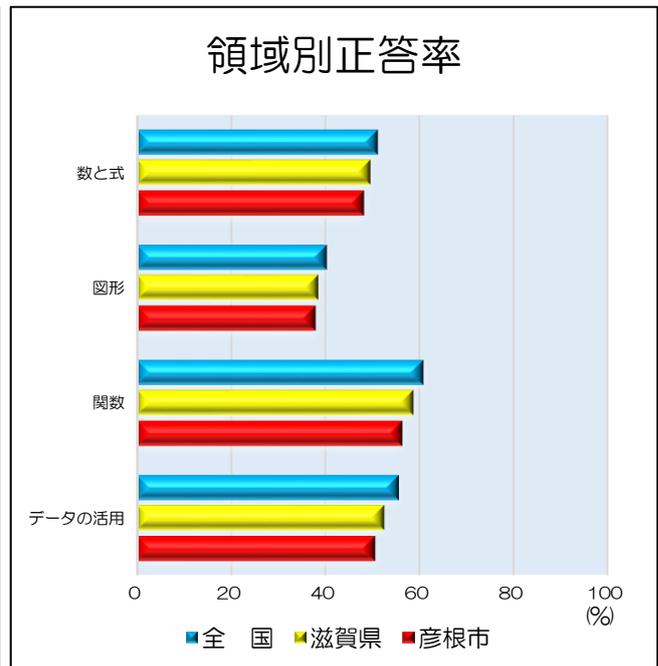
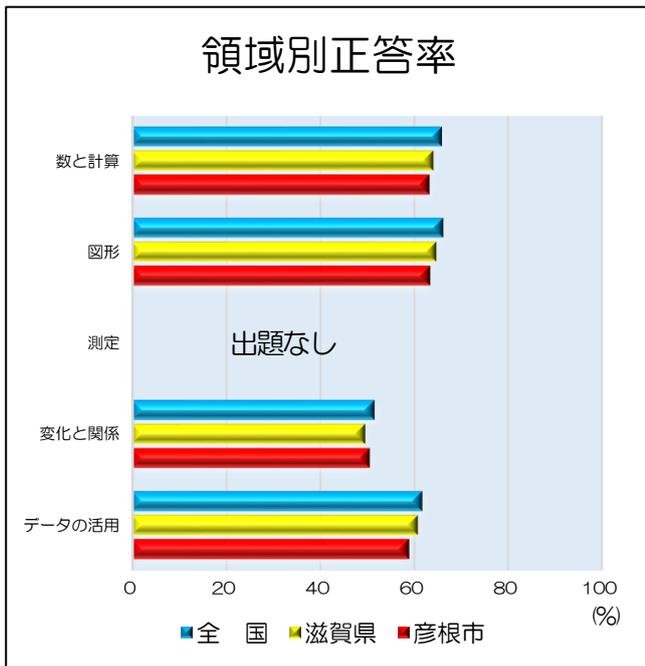
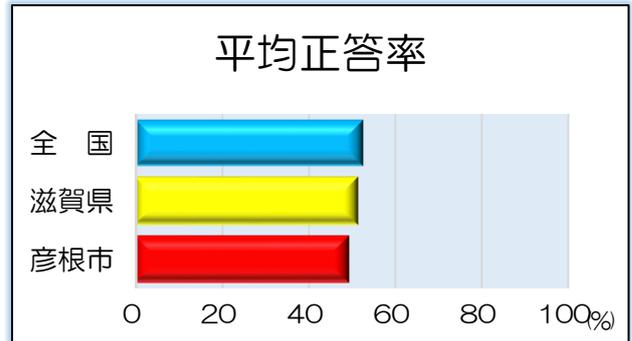
(求められる力と学びの改善ポイント)

- 小学校では、「目的や意図に応じて、複数の資料や文章から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめる力」を身に付けることが求められます。中学校では、「文章と図とを結び付けて考え、目的に応じて必要な情報を要約し記述する力」や「表現の効果について、自分の考えを明確にして伝えられる力」を身に付けることが求められます。
- 子どもたちには豊かな言語環境づくりを進めることにより、本に親しみ、友だち等との対話づくりに取り組むとともに、より主体的に漢字や慣用句を習得し、国語の力を高めます。

小学校（全16問）



中学校（全16問）



この調査から分かること

(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校では全国平均を若干下回り、中学校では下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小・中学校ともに全ての領域で全国平均を下回りました。
- 小学校では、図形領域で、立体についての深い知識・技能を問う問題で課題が見られました。中学校では、データの活用に関する問題などで、思考過程を表現する問題に課題が見られました。
- 小学校の記述式問題の無解答率が全国平均よりも低く、昨年度に続き改善が見られました。中学校の記述式問題の無解答率が全国平均よりも高く、粘り強く取り組むこととともに数学的に説明することに課題が見られました。

(求められる力と学びの改善ポイント)

- 小学校では、「数量関係を捉え、式に表す力」や「グラフや表から分析する力」、「考察したことを言葉や数を用いて記述する力」が求められます。中学校では、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力」「問題解決の過程や結果を振り返って、統合的・発展的に考察する力」が求められます。
- 一人ひとりの子どもたちが課題意識をもてる授業展開を通して、主体的な学びを進めます。また、数式や図やグラフ、データから分かることを友だち等と対話的に学ぶとともに、図形の証明や式を用いての説明などの数学的な表現に慣れ、繰り返し学び、習熟できるようにします。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」について

彦根市教育委員会では、これからの時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を子ども達に育むことをめざして、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」を令和2年度に作成しました。子どもの身近にいる大人の考え方や言動等は子どもの非認知能力を育てるための重要な環境であることから、子ども達へのメッセージと共に、大人たちへのメッセージも示しています。

全国・学力状況調査の児童生徒質問紙の回答状況について、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点で分析し、彦根市の子ども達の育ちについてまとめてみました。

<非認知能力> 3つの能力とそれぞれの能力を構成する要素

○目標の達成

・忍耐力 ・自己抑制力 ・目標への情熱

○他者との協働

・社交性 ・敬意 ・思いやり

○情動の制御

・自尊心 ・楽観性 ・自信

(出典 「非認知能力が子どもを伸ばす」中山 芳一 著 東京書籍)

彦根教育学びの提言 プラス		彦根市教育委員会	
ひこねっこ ころそだての6か条			
い	いいんだよ ありのままで!	★子どもは、大人の温かい関わりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、ありのままを認めることが大切です。	
い	<small>いっほ</small> 一歩ふみだし やってみよう!	★「まず、やってみよう!」「なんとかなるよ!」と応援しましょう。小さな成功体験や失敗から学ぶ経験の積み重ねが、子どもの力を伸ばします。	
な	<small>まな</small> なぜ?どうして?は 学びのチャンス☆	★子どもの疑問に寄り添い、「~したい!」という気持ちを大事にして、探究心をはぐくみましょう。	
お	<small>おも</small> <small>こころ</small> 思いやりの心で つながろう!	★「自分なら…」「自分がされたら…」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやる大切さを、子どもの心に届けましょう。	
す	<small>すこ</small> <small>じぶん</small> 少しのがまん 自分のために☆	★目標達成に向けて、一緒に「計画をたてる」「ルールを決める」などして、時には我慢も必要なことに気づかせながら、自分で判断し行動できる力を育てましょう。	
け	<small>げんき</small> <small>ゆめ</small> <small>む</small> 元気にチャレンジ 夢に向かって☆	★結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、がんばりや成長をほめて励ますことが、子どもの次のやる気につながります。	

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点での
児童生徒質問紙の分析について

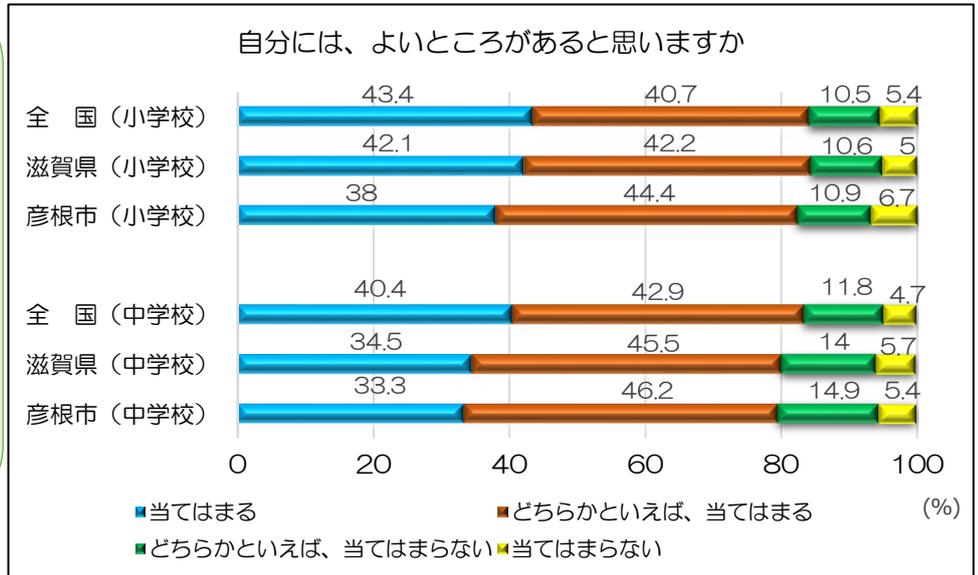
※グラフの数値について、小数第2位以下は省略しています。

い

いいんだよ ありのまままで！

小学校では 80%、中学校では 75%以上の子どもが肯定的に回答しました。しかし、一部に肯定的でない回答も見られました。

学校、家庭、地域において、子どもの話を聞き、成功体験だけでなく失敗体験も含め、チャレンジした姿勢を認め、励まし、自己肯定感を育むことを大切にしていきたいものです。



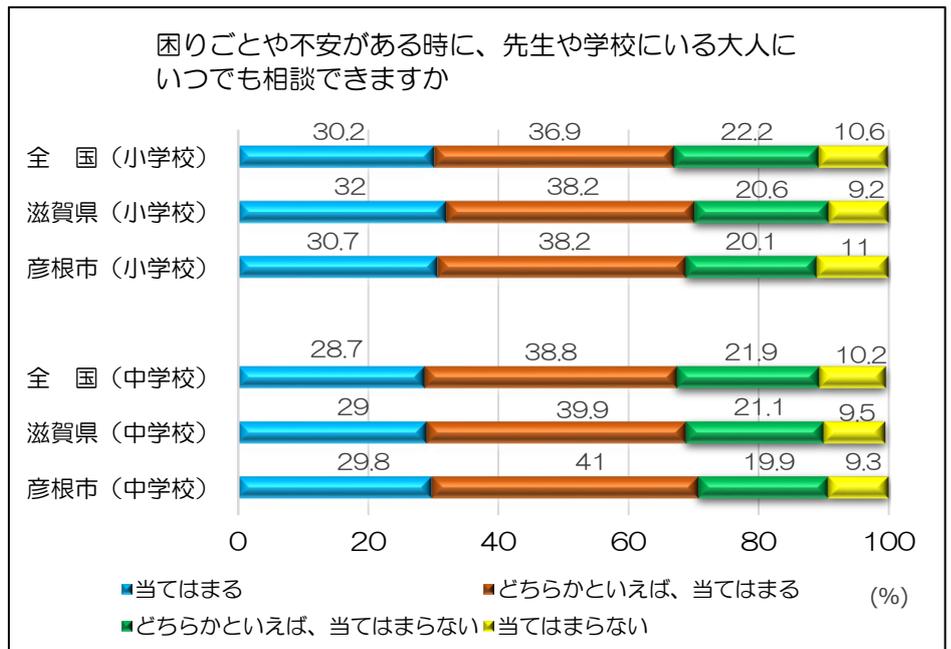
い

一歩ふみだし やってみよう！

小学校では、70%近く、中学校では 70%以上の子どもが肯定的に回答し、ともに全国平均率を上回る回答です。

一方、「当てはまらない」と回答した子どもも 10%程度います。

子どもたちが困りごとや不安がある時には、相談し支えることで、子どもが本来持つ気持ちや挑戦してみようとする力を伸ばしましょう。



な

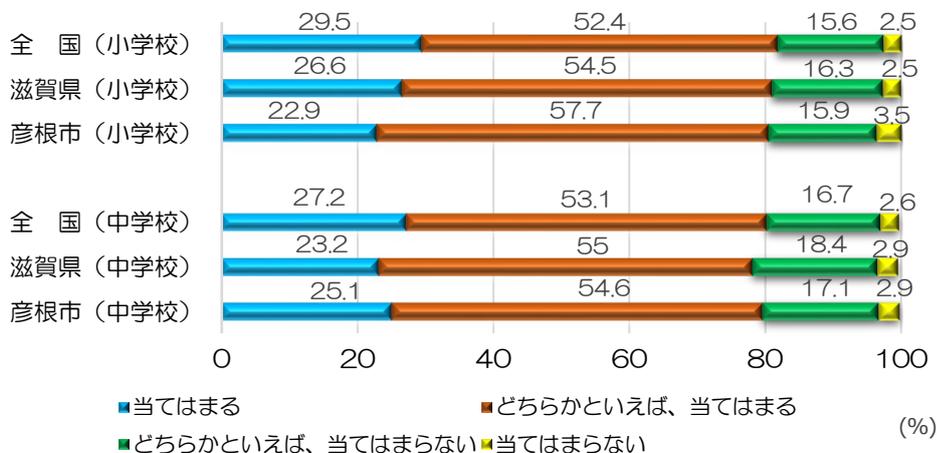
なぜ? どうして? は 学びのチャンス☆

小中学校ともに 80%程度が肯定的に回答し、課題解決に向けて取り組もうとする子どもが増える傾向にあります。

「探求心」は、思考力や観察力の土台となる力といえます。「探求心」を育てるために、子どもの疑問の気持ちに応え、一緒に考えたり、探したりする姿勢を大事にしたいものです。



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



お

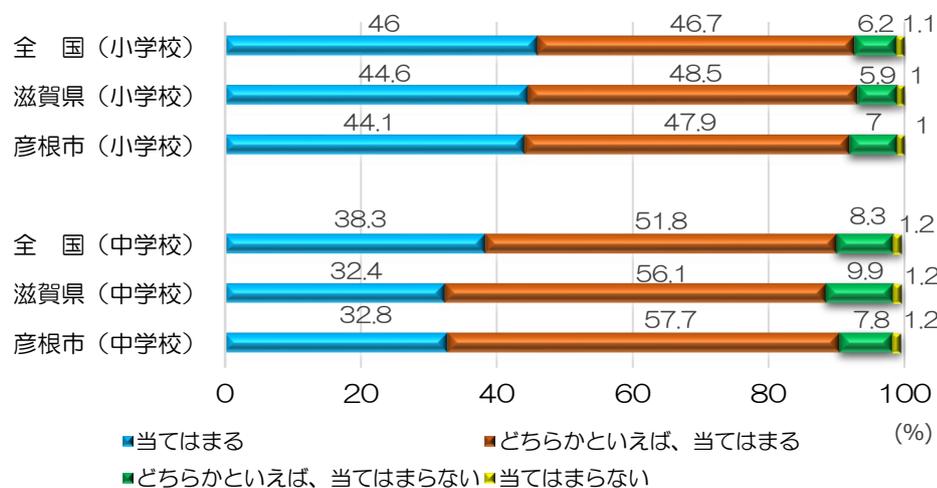
思いやりの心で つながろう!

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、小中学校ともに90%以上の子どもが肯定的に回答しました。

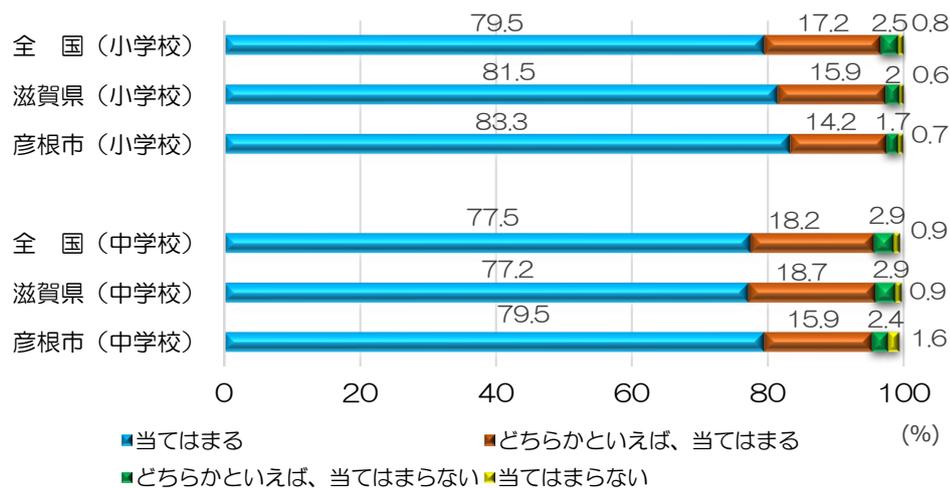
思いやりの心を育むには、共感することが大切です。親や周りの大人に自分の気持ちを共感してもらい、心が満たされることにより、相手を思いやり心、協調性が育まれます。学校においても、すべての子どもの居場所づくりに励んでいきます。



人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

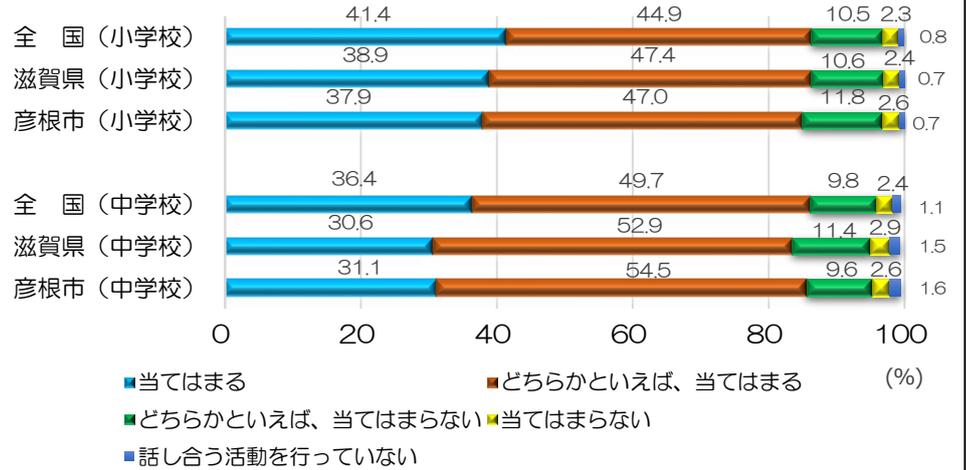


小中学校ともに 85% 程度の子どもが肯定的に回答しました。

話し合い活動や学び合いを通じて、他の人の考えを聞いたり一緒に考えたり学んだりすることにより、相手の気持ちを大切にしつつ、自分の考えを深めたり広げたりすることになります。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



す

少しのがまん 自分のために☆

携帯電話やスマートフォンの使い方について、約束を守っていると肯定的に回答した子どもが大半を占める一方で、そうでない子どもの割合が全国よりも高いことがわかります。

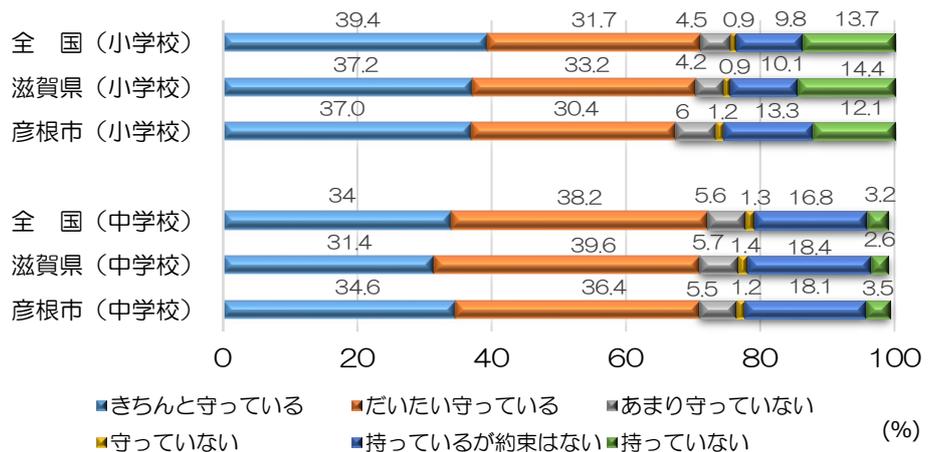
また、平日携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴をする子どもの割合が、小学校・中学校ともに全国よりも高いことがわかります。

スマートフォンやコンピュータ等の長時間使用は、スマホ依存症や健康面のリスクを伴います。

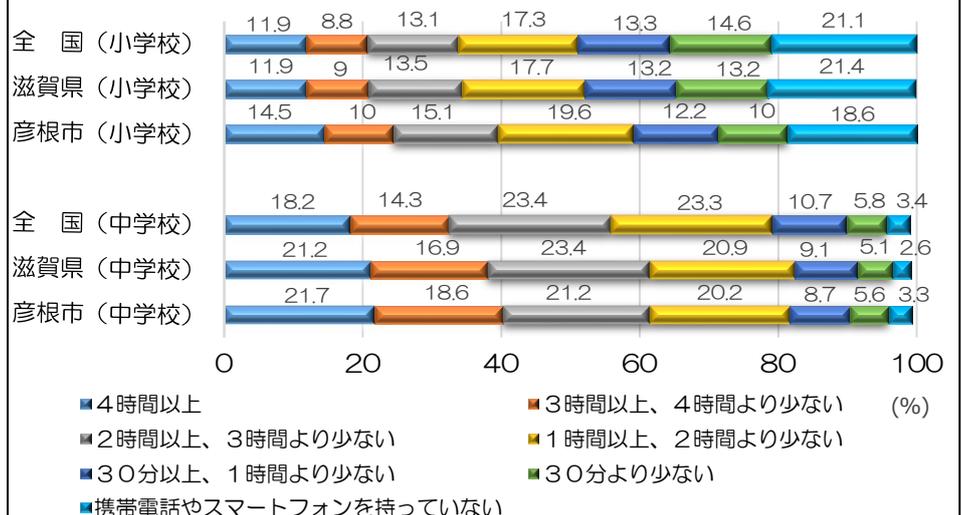
お家の方と一緒に使い方やルールについて考え必要に応じて見直すことが、生活習慣の向上につながります。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



け

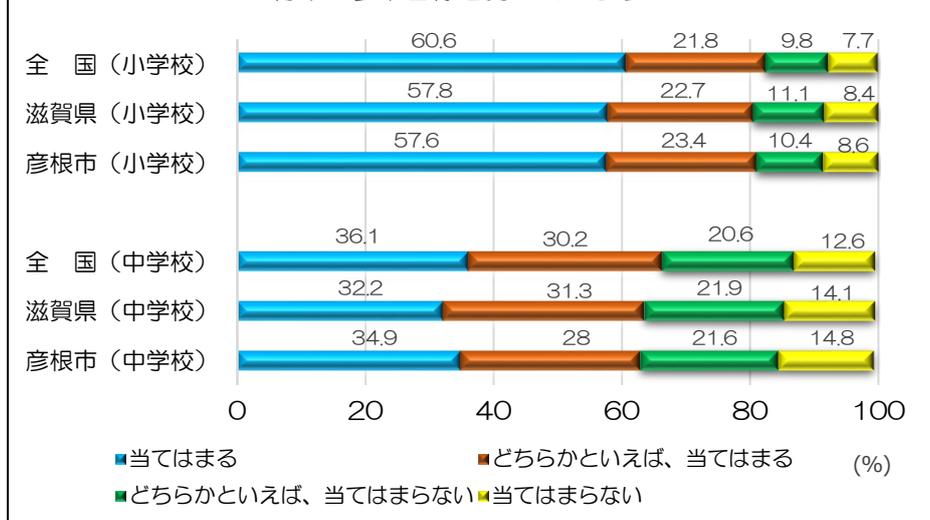
元気にチャレンジ 夢に向かって☆

小学校では、80%程度、中学校では60%程度が肯定的に回答しています。

子どもが自分でやろうとした意欲や姿勢を認めることが大切です。結果だけでなく、途中経過の努力をほめられた子どもは、目標に向かって努力を惜しまずに取り組むようになります。



将来の夢や目標を持っていますか



保護者・地域のみなさまへ

これからの時代を生き抜くために、子ども達は、学校を離れてからも自立して学び続けることが重要であると言われています。彦根市教育委員会では、学習指導要領で示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、取組を進めるとともに、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる「非認知能力」を伸ばすことが大切であると考えております。

学校においては、全ての教職員が、「学ぶ力」向上に向けて、組織的に実践する取組を推進するとともに、子どもたちが「安心・安全」を実感し、互いに認め合える集団づくりを推進します。子ども一人ひとりが主体の授業づくり、主体的・対話的で深い学びを通して、子どもが学びを実感できる授業づくりを推進します。

また、学びの基盤となる言語環境の充実に向けて、読書活動の充実と習慣化に取り組むとともに、基礎的な学力（漢字・計算等）につきましては、子どもたちがタブレット等を活用しながら自主的・計画的に学ぶことにより、身につけさせたいと考えています。各家庭においては、子ども達を認め、励ますことによって、安心してチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって、子ども達を見つめ、励まし、支えることにより、子ども達の学びを豊かにし、これからの新しい時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を含めた「生きる力」を育成していきたいと考えます。今後も一層のご協力をよろしくお願いいたします。